



いづみ

No.56

街なかの美を守ろう

(題字 國松 明日香)

自作自選 26



《無限の渦》

千代 明

(2 ページに「作者の言葉」)

自作自選 26 作者の言葉

全ての物は宇宙が誕生した時から始まっている。そう考えた時、私の中にも宇宙が存在し、DNAの中に記憶され、シンクロした時、インスピレーションが湧き、現実の三次元空間に形として存在してくる。その時の意識が具現化したものが作品であり、形になる瞬間に喜びを感じる。

(千代 明)

タイトル：「無限の渦」

制作年：2015 年

素材：鉄、ウレタンペイント、ミクストメディア

サイズ：W350×D350×H250 cm

設置場所：作者蔵

撮影：山田 禎司

連載 宮の森の四季 26

本郷新記念札幌彫刻美術館

ロダン芸術の魅力

学芸員 樋泉 綾子

当館は6月29日で開館35周年を迎えました。これを記念し、7月9日からフランスの彫刻家・オーギュスト・ロダン(1840～1917)の展覧会を開催します。道内外の美術館所蔵の作品をお借りして構成する特別展で、この原稿を書いている今は準備に奔走中です。

パリ生まれのロダンは、人物の内面にまで迫るような生命感あふれる写実表現により、「近代彫刻の父」と称されました。日本近代の彫刻家たちは彼の芸術を熱狂的に受け入れ、本郷新もまた、師・高村光太郎の著作『ロダンの言葉』や、ロダンの実作を通して、この巨匠に多くを学んでいます。ロダンはいわば本郷新の源流なのです。

本展は、そんなロダン芸術の魅力をじっくりと味わえる内容です。あまりにも有名な、あの《考える人》の小さな像もやってきます。(《考える人》はサイズが3つあるのです)。

本館でロダンを堪能したあとは、記念館の本郷新の作品もぜひご覧ください。本郷の作品にロダンの影を探してみるのも面白いと思います。皆様のご来場をお待ちしております。

(会期:7月9日～9月25日)



若い芸術家を応援して

「OKUI MIGAKU ギャラリーコンサート」が 100 回に

ギャラリー主宰 奥井登代 (友の会副会長)

21 年前、交通事故で世を去った画家を目指していた息子理（みがく）は多くの絵と言葉を遺していた。私たちは息子の生きた証にと 2003 年 5 月に彼のギャラリーを開設。その時、訪ねて下さった北海道教育大のフルーティストでもある阿部博光教授との出会いがコンサートのきっかけだった。「ここでコンサートができる、若い音楽家は多くの人に聞いてもらうことで育っていく」その言葉がこのギャラリーに思いもしない展開をもたらしてくれることとなった。この年の 8 月、阿部先生、スイスバーゼル音楽院の教授と阿部先生の教え子たちによる贅沢なオープニングコンサートがギャラリーコンサートの始まりとなり、阿部先生ご夫妻をコーディネーターに未来の音楽家、若い音楽家を応援し、地域の文化に貢献する OKUI MIGAKU ギャラリーコンサートとして今年 5 月、100 回を迎えることになった。

若い音楽家を中心に延べ約 280 名が演奏してくれた。音楽に真摯に向き合う彼らの姿は聴く者の心を打ち、元気を与えてくれた。若い演奏者は息子の絵に励まされて演奏できた・・・絵からエネルギーをもらったなどと話してくれた。そして学生だった演奏者は今や地元札幌、全国で、あるいはヨーロッパで活躍。その成長の姿を再びここで披露してくれることもある。それは聴く者の喜びでもある。

わたしには「文化、芸術は深く厳しい。しかし、…ダメになった人間を救ってくれる。生きる喜び、生れてきたことの喜び、

たった一度の人生が素晴らしいってことを教えてくれる。」という理の言葉をかみしめ、人を幸せにする画家になりたいという理の遺志に沿う活動であることを実感できる場となった。

100 回記念コンサートは第 99 回に音楽大学の学生よるカルテット+フルートの演奏、それは彼らが作り上げた若い音楽性を感じる演奏。そして翌日、第 100 回はこのコンサートを支える阿部ご夫妻によるチャリティーコンサート。13 年前 7 歳だった次女の幸奈さんのヴァイオリン演奏も加わった第 100 回に相応しいコンサートだった。

6 月には第 101 回のギャラリーコンサートがスタートした。私はこのコンサートで新たな感動を覚えた。「言葉と音楽」と題し、札幌出身の若い作曲家がすべての曲を自身が作曲し、ピアノ、朗読、歌、ピアノの連弾のとても美しく、温かいコンサートだったが、連弾の曲は 3 手連弾となっていた。ソロピアニストとしてこれからという時に脳梗塞のため左半身不随になった幼い時からのピアノ仲間のために作曲した両手と一つの右手のための美しい連弾曲だった。彼を支える二人の温かい友情に胸が熱くなった。聴衆からの拍手も今まで以上に温かく感じた。こんなコンサートが繰り広げられるギャラリーコンサートを大事にして、これからもできる限り頑張っ続けていこうと改めて決意するのだった。窓の外から息子が「頑張れ！」と声援を送っているように思えた。

本郷新記念札幌彫刻美術館

新館長 寺嶋弘道さんに聞く

聞き手 橋本信夫友の会会長



抱負を語る寺嶋新館長（右）と橋本会長

本郷新記念札幌彫刻美術館の館長がこの春、池田悦子前館長から寺嶋弘道館長へとバトンタッチされた。昨年、友の会が主催したシンポジウム 2015「野外彫刻を創る・守る」で総合司会を務め、手慣れた司会ぶりと最後のまとめが秀逸だったことで参加者にも好評だったことで記憶に新しい。その寺嶋新館長に橋本信夫会長が今後の美術館の運営や友の会との交流などについて聞いた。（文責・大内）

——新しい館長への就任、おめでとうございます。昨年は友の会のシンポジウム 2015 に総合司会でお力添えをいただきありがとうございました。このたびは新館長という立場でお付き合いいただくわけですが、彫刻美術館の運営についてどのような抱負をお持ちでしょうか。

寺嶋 美術館も含めてですが、博物館には収蔵、展示、普及、調査研究の4つの役割があります。私はこれに市民が活動できる場の提供、つまり拠点という5番目の役割を加えたいと思っています。拠点という意味は美術館が情報発信の場になることです。市民がここに来て情報にアクセス出来る、情報を発信できる。これが博物館施設の役割なのです。そういった美術館にしたいと思っています。

——1981年、美術館の発足と同時に私たちの彫刻美術館友の会もスタートしています。これまでも長く美術館を見てきましたが、美術館にとって最大の関心事は入館者の数ではないでしょうか。入館者の増大は美術館の永遠の課題でもあるかも知れません。入館者数をいかに増やすか。そのあたりのお考えを。

寺嶋 大事なことはこの美術館にも多大な税金が投入されています。だから税金の使い道とし

て適切に運営されているかは美術館の職員ばかりでなく、市民、地域の人にも気にしてもらわなければならない。そのためにも、いい展覧会をやり、いい普及事業をして一人でも二人でも多くの人に来てもらい、満足してもらいたいのです。

——友の会の会員は180人を数えます。我々の力も強力な武器になるのではと思いますが。

寺嶋 その通りです。私は友の会の会員の方々に、1年に1回でいいから足を運んでもらいた。そうすれば美術館への大きな応援になります。友の会の方々が職員と交流し、また、地域の人や入館者と交流しながら、彫刻に関する知識、情報、鑑賞のノウハウ、作品の保全・保護の情報を伝える場面があつていいのではと思います。それが先ほど述べた美術館の第5の役割の実践でないでしょうか。そんなことが出来ればうれしいと考えています。

寺嶋新館長のプロフィール

1955年、滝川生まれ、苫小牧育ち。苫小牧東高から金沢美術工芸大卒。道立三好太郎美術館学芸員を振り出しに道立近美、帯広美術館、道立文学館、道立近美学芸副館長を経て2016年4月から現職。

視覚障害者の彫刻清掃

太田 雅人（会員）

美術館巡りが好きで今年、友の会の会員になり、初夏のような陽気に恵まれた5月22日、ライラック祭りで賑わう大通公園の《いずみの像》《花の母子像》《石川啄木像》などの彫刻清掃に参加しました。今回は私の知り合いでもある3人の視覚障害者と一緒の参加でした。

3人とは以前、私が参加した視覚障害のための美術鑑賞イベントで知り合った関係で、私が特にサポーターといった立場ではありません。ただ、彫刻清掃のほぼ一カ月ほど前、札幌市の聴覚障害者福祉協会の方と話し合う機会があり、その節、私が友の会の彫刻清掃の話をしたところ、協会の方を含め、同席していた知人の障害者の一人も非常に強く興味を持って下さいました。視覚に障害のある人はハンディキャップゆえ、作品を自ら鑑賞するには作品に触れるしかないのですが、野外彫刻に触るという機会はめったにありません。でも、彫刻の清掃なら実際に好きなだけ触れられます。また、彫刻の清掃は健常者でもめったに経験できないことです。これは何としても3人の方を清掃作業に参加させたい。また、友の会にとっても今までにない貴重な経験になるのではと考え、お願いし、参加が実現しました。

目の不自由な人にとって彫刻の高さや足場の関係もあり、比較的手の届きやすい彫刻をお願いしましたが、難しいところでも

積極的に清掃に取り組んでいただき驚きました。



感触を確かめながら彫刻清掃を楽しむ

目の見えない方にとって「触れる」ということは見ることと同じくらい重要なことで、実際に彫刻に触れながら汚れを落とし、そのあと、作品の解説を聞いたことで参加した人たちから「とても楽しい時間を過ごすことが出来ました。いつか少しのフォローを受け、自分たちだけで清掃できるように頑張りたいものです」との感想のメールもいただきました。

私としても何よりも嬉しく、今回の清掃を行って本当によかったと心から感じました。一方的になりがちな障害者へのサポートですが、障害者が積極的に楽しく取り組めるというのが継続的サポートに非常に重要なものだと分かり、自分としても得るものが大きかったと思います。3人の方から「次の清掃にも参加したい」との声も届いています。

2016 年度彫刻美術館友の会総会開催

野外彫刻カタログ編集継続、彫刻清掃保全活動に力を傾注

2016 年度彫刻美術館の総会が 5 月 7 日、札幌・わくわくホリデーホール（札幌市民ホール）で開かれ、新年度活動計画案、予算案など全 4 議案を提案通り可決した。

総会は午後 1 時半から始まり、議長に高橋大作氏を選出、2015 年度活動報告、



同決算・監査報告を原案通り承認した。ついで 2016 年度活動計画案を審議、彫刻カタログ編集作業の継続、野外彫刻清掃保全活動、彫刻学習会の充実、後志方面へのアートツアーの実施、有志による仙台市への清掃活動視察などを提案通り可決した。また、新年度予算として総額 107 万 9544 円が認められた。会場から新年度予算案の運営準備金の扱いについて質疑があり、同準備金の今後の取り扱い方を役員会で検討することになった。今年度は役員改選はなく、現行役員で継続する。

なお、総会の冒頭、4 月 25 日の早朝、NHK ラジオで放送された友の会の活動ぶりを紹介した番組の内容が橋本会長作成の DVD で報告された。

恒例総会后講演

「自作を語る—風景の彫刻から観念の造景へ—」

彫刻家・國松明日香氏が軽妙な語り口で作品のエピソード交えながら

総会に引き続き、恒例の講演会では友の会の顧問でもある彫刻家の國松明日香氏が「自作を語る—風景の彫刻から観念の造景へ—」と題して講演、芸大の学生時代から現代までの自分の作品の移ろいについて洒脱な口調でエピソードを織り交ぜながら語った。

國松氏は現在、芸術の森美術館の学芸員である岩崎直人氏がかつて國松氏の展覧会に際して区分した作品の変遷にしたがい、第 1 期（1970～84）「風景の彫刻」第 2 期（83～91）「概念の造形」第 3 期（91～99）

「風の表徴」第 4 期（2000 から現在）「観念の造景」の順に自作をスクリーンに映し出しながら、それぞれの作品への思い出、創作時のエピソードをふんだんに語りながら、

多くの人との出会いの中で学んだ彫刻に取り組む姿勢、パブリックアートへの考え方などについて話した。また、亡父で道内画壇の重鎮だった國松登氏の作品を映写しながら父親との思い出も披露した。



市民の宝ピカピカ大作戦

彫刻清掃活動早くも本番

友の会の今年の彫刻清掃活動が始まった。「市民の宝 ピカピカ大作戦」のキャッチフレーズで、手始めは5月7日、真駒内地区の清掃作業。地下鉄真駒内駅前にある丸山隆の《一休みする輪廻》を水拭きし、つい



で真駒内第1公園の佐藤忠良《牛と少年》は台座が高いので脚立を立てての作業となった。さらにエドウィン・ダン記念公園の《エドウィン・ダン》像は高圧洗浄機を使って汚れを洗い流した。さらに同22日には札幌観光の中心、大通公園の《泉の像》をはじめ《石川啄木像》など4基を清掃した。この

作業には目の不自由な人たちも参加、ぞうきんを片手に彫刻に触れながら普段は鑑賞できない彫刻作品に触れて満足そうだった。

また、6月4日には中央区にある新渡戸稲造萬里子両先生顕彰碑の清掃が行われ、会員の高橋大作さんが顕彰碑の解説を行い、「新渡戸稲造と遠友夜



学校を考える会」のメンバーが草刈りを行った。

石川さわ子市議

野外彫刻の管理で質問

札幌市議会本会議

石川さわ子札幌市議（北区・市民ネットワーク北海道）が3月の定例会市議会で札幌市が管理する野外彫刻の管理体制について理事者の考え方を質した。市議会で友の会が日ごろ関わっている彫刻の管理問題が市議会で討議されるケースはこれまでほとんどなかった。



石川市議が質問にたったのは3月22日に開かれた平成28年度定例会市議会予算特別委員会。野外彫刻の現状をどのように把握しているか、十分な補修が出来ず傷みが激しい彫刻の状況をどの程度つかんでいるかなど、広範囲に質問。市側から円山動物園の《よいこつよいこ》像について、正門前の再整備事業に関連して補修を考えているなどの答弁を引き出した。

もっと美術館へ

優待制度利用できます

彫刻美術館・芸術の森野外美術館

ご存知ですか一友の会の会員証を提示するだけで本郷新記念札幌彫刻美術館と芸術の森野外彫刻美術館の入館料が割安になることを。

彫刻美術館では入館の際、会員証の提示で入館することが出来る。常設展（コレクション展）、特別展などで入館料は異なるが、団体料金が適用され、実際の入館料は友の会が支払う形。一方、芸術の森野外美術館の場合は窓口で会員証を提示すると通常料金700円のところ630円に割引く。

事務局日誌

▼3月10日=シンポジウム2015報告書完成(札幌市へ提出)▼22日=石川さわ子札幌市議が予算特別委で野外彫刻管理に関して質問(札幌市役所)橋本会長ら傍聴▼4月14日=定例役員会(北大学術交流会館)総会準備、友の会の体制見直しなど▼25日=NHKラジオ第1放送で友の会の活動ぶりが紹介される▼5月6日=会計監査、3役会議(エルプラザ)▼7日=2016年度総会開催(わくわくホリデーホール)▼19日=定例役員会(エルプラザ)会報「いずみ」56号編集企画ほか▼15日=真駒内地区彫刻清掃。新年度の清掃活動始まる▼6月9日=定例役員会(エルプラザ)来年度に向けた友の会組織の検討ほか

編集後記

▼彫刻美術館の新館長、寺嶋弘道氏へのインタビューを橋本会長にお願いした(4ページ)。実際の内容はもっともっと多いが、スペースの関係でさわりだけに。悪しからず▼でも、友の会と積極的にかかわろうという館長の意気込みを汲み取ってほしい。(大内)

札幌彫刻美術館友の会

会報「いずみ」 No.56

2016年7月1日発行

発行人 橋本 信夫

編集者 大内 和

(札幌市清田区清田5-4-6-30)

011-884-6025

印刷

山藤三陽印刷

会報「いずみ」56号 目次

自作自選26《無限の渦》	千代 明	表紙
作者の言葉		2
宮の森の四季26「ロダン芸術の魅力を」	樋泉綾子	2
風見鶏「ギャラリーコンサート100回」	奥井登代	3
インタビュー「寺嶋新館長に聞く」	橋本信夫	4
寄稿「聴覚障害者の彫刻清掃」	太田雅人	5
友の会ニュース		6-7
2016年度友の会総会開催/國松明日香氏が講演/ピカピカ大作戦/石川さわ子市議が質疑/入館料優待制度の活用を		
事務局日誌、目次、美術館行事予定ほか		8

本郷新記念札幌彫刻美術館行事予定

本館

■本郷新記念札幌彫刻美術館開館35周年記念

ロダン展 7月9日(土)～9月25日(日)

開館35周年を記念し、近代彫刻の父として知られるフランスの彫刻家オーギュスト・ロダンの優品を展覧する。国内美術館のコレクションにより構成。

記念館

■常設展示(通年)

開館35周年記念「本郷新と札幌彫刻美術館」

通年の展覧会とし、本郷新の人となりや制作姿勢、札幌彫刻美術館の成り立ち、作品、制作道具、写真などの資料を通して本郷新と美術館への理解を深めてもらう。

本郷新記念札幌彫刻美術館

札幌市中央区宮の森4条12丁目 ☎011-642-5709

友の会ホームページ公開中です！ご覧ください

<http://sapporo-chokoku.jp>